



- 藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション部の紹介 新妻 晶
- 見えないモノを信じる強さ、見えるモノを疑う弱さ 田淵 晃大
- 入職後半を終えて 星 愛莉
- 半年を振り返って 内藤 翔太
- 落ち着いたら手紙を書くということの難しさ 松尾 悠
- 栄養科ってこんな場所 玉木 大輔
- 平成25年度青葉区消防操法技術訓練会 藤が丘病院管理第一課
- 診療統計 ●編集後記

## 藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション部の紹介

リハビリテーション病院 リハビリテーション部 技師長補佐 新妻 晶

藤が丘リハ病院・リハ部は、G階外来診察室の奥に運動療法・機能訓練室(小児訓練室も含む)、作業療法室、ADL室、言語聴覚療法室があり、1階の回復期病棟にも機能訓練室があります。また4階には心大血管リハ訓練室があり、理学療法士(PT;Physical Therapist)23名(+非常勤2名)、作業療法士(OT;Occupational Therapist)9名(+非常勤1名)、言語聴覚士(ST;Speech-language-hearing Therapist)4名のリハ・スタッフが従事しております。



### <理学療法>(PT;Physical Therapy)

理学療法とは、心身の両面から機能回復・維持を目的

に行われる治療で、日常生活の改善指導や社会生活のための福祉用具、住宅環境、在宅ケアの調整なども含まれます。

理学療法士はケガや障害に対して、運動や物理療法を通じて治療を行い動作の改善や回復を図ります。また、障害を持つ人に限らず、健康増進・維持を目的に理学療法を通じて指導や助言を行います。最近では呼吸器疾患や心疾患、がんも対象となり、さらに高齢者の介護予防、生活習慣病に対する指導、スポーツ分野などにも活躍の場が広がっています。

### <作業療法>(OT;Occupational Therapy)

作業療法とは、身体・精神に障害のある方や予測される方に対し身体機能・高次脳機能への働きかけを行い、その主たる生活を取り戻すべく日常で行われる身近動作、家事や仕事、趣味などの諸活動の回復を其々の作業を通して促し、家庭・職場復帰のために個々の能力を最大限に生かす生活の再構築を図ります。また、住環境整備や福祉用具選択の提案も行います。

### <言語聴覚療法>(ST;Speech-language-hearing Therapy)

言語聴覚療法とは、脳梗塞・脳出血などの病気、事故などによる脳損傷によって引き起こされるコミュニケーション障害である「失語症」や「構音障害」の方はもとより、「嚥下障害」の方への評価・訓練も行い、状況によりベッドサイドでの対応も行っています。

私たちは当院の内科系診療科(循環器・内分泌代謝・呼吸器・腎臓・脳神経内科)、整形外科およびスポーツ整形外科、小児科、リハビリテーション科より処方された入院あるいは外来患者様の心大血管・脳血管・運動器・呼吸器リハや小児、集団コミュニケーションリハをPT・OT・STがそれぞれ分担して行っており、特に回復期リハ病棟(54床)の患者様には365日リハ提供体制で対応しています。(各疾患別リハ等の詳細についてご興味のある方は、当院・リハ部のホームページをご覧ください。)

当院に入院される患者様は、病気・けがの治療や術後の安静期は経過したものの、すぐに日常生活に戻るには、主に身体機能面の回復が不十分な方々が大半なので、退院に向けて回復の期待できる能力を正しく見定めながら、充実したリハビリの提供

を行っています。また、退院後もしくは入院加療には至らないまでもリハビリの継続及び経過観察が必要な患者様には、状況に見合った外来リハを行っております。さらに、小児の患者様には、身体の成長とともに能力の変化を観察しながら定期的な評価を継続することで、成人に至るまでの経過を見届ける役割も担っております。

私たちリハ・スタッフは、今後ともできる限り様々な患者様のニーズにお応えできますように努力して行きたいと思っております。

## 見えないモノを信じる強さ、見えるモノを疑う弱さ

臨床研修医

田淵 晃大



研修開始から半年が経ちました。医師免許を取得し知識面の最低限の裏付けは頂いたものの、その実用や技術面では未熟です。研修医が診察、手技、処方などを行う際は各科の指導医・上級医のもとで行い、多くの注意点・コツを教えて頂いています。藤が丘病院は現制度導入前の内科ローテーション制度で培われた熱心な教育文化と各科の連携の良さがあり、私はそれに魅力を感じ、藤が丘病院での研修を志望しました。また外科系・専門科とも技術に定評のある各科が揃い、リハビリ病院を中心に近い将来を見据えた医療・福祉連携が可能な体制・地域性であることも魅力です。研修を始めて感じたことは地域の病院診療所との連携です。入院や外来初診の方の紹介状を拝見すると、実に過不足なく必要な情報が載っており、どのようなときに入院が必要で、大学病院である必要があるのかなど勉強になります。また大学病院の特徴として、医療専門職が多く活躍されており、検査・リハビリ療法が効果的に進むために、どのような情報を生かせばよいかなど、有用なアドバイスを頂くことが幾度となくあります。

さて、私に関しては諸先輩方の環境整備への尽力で、勉強をする時間や技術を身に着ける機会、そして休息の時間を確保していただいています。周囲からはどの科に進むのかよく聞かれます。私の希望科としてはまだ漠然といくつか思い浮かぶ程度で同期の研修医も同じようです。ただ、ローテーションする各科とも興味があるか、自身に必要なと認識している科であるので、どの科も魅力的に映ります。一方、日常の病棟でうまくいかないとき、反省や復習で考えるのは相手の視点に立つことです。例としては大げさですが(病院では)日常的な採血を侵襲的(イヤだ)と感じれば、本幹となる治療までも嫌がり、病状が悪化するまで入院を拒む方もいるでしょう。また健康面の不安は病院に来る方それぞれがお持ちのはずです。研修医としてできることは、ひとつひとつの手技を地道に向上していくこと、不安の訴えや考え方を聞き、わかりやすい言葉で説明することだと思っております。研修開始から半年経ち、みなさんの助言で生じた余裕を周囲に還元できるよう今後とも精進いたします。

さて、私に関しては諸先輩方の環境整備への尽力で、勉強をする時間や技術を身に着ける機会、そして休息の時間を確保していただいています。周囲からはどの科に進むのかよく聞かれます。私の希望科としてはまだ漠然といくつか思い浮かぶ程度で同期の研修医も同じようです。ただ、ローテーションする各科とも興味があるか、自身に必要なと認識している科であるので、どの科も魅力的に映ります。一方、日常の病棟でうまくいかないとき、反省や復習で考えるのは相手の視点に立つことです。例としては大げさですが(病院では)日常的な採血を侵襲的(イヤだ)と感じれば、本幹となる治療までも嫌がり、病状が悪化するまで入院を拒む方もいるでしょう。また健康面の不安は病院に来る方それぞれがお持ちのはずです。研修医としてできることは、ひとつひとつの手技を地道に向上していくこと、不安の訴えや考え方を聞き、わかりやすい言葉で説明することだと思っております。研修開始から半年経ち、みなさんの助言で生じた余裕を周囲に還元できるよう今後とも精進いたします。

## 入職後半年を終えて

藤が丘病院 8階西病棟

看護師

星 愛莉



はやいもので看護師として当院に勤めてから半年が経ちました。入職したばかりの頃は、病棟での勤務の他に看護に関する研修がたくさんありました。そのため、覚えなければならぬことが多く焦りを感じました。また、新たな環境での生活に慣れていけるかの不安もあり、とても緊張していました。3か月が経過した頃には環境にも慣れていき、少しずつ仕事を覚えていくことができました。しかし、仕事を覚えていくにつれて自分の未熟さを感じ辛い日々もありました。そのような時、支えになったのは同期、先輩の看護師でした。同じ病棟に就職した新人看護師は私を含め6人います。お互いの気持ちを理解しあえるため、様々なことを話すことができ自分だけが辛いわけではないと思えることができました。また、先輩の看護師も私のことを気にして声をかけてくださり安心して仕事ができるような環境づくりをしてくださいました。このような周りの支えにより辛い日々を乗り越えることができました。6ヶ月が経過した今、働いていくうちに看護師として働ける喜びや新しいことを学べる楽しさを身にしみて感じ、一生懸命働いていこうという意欲が強まりました。

この半年間辛いことばかりではなく、楽しいこともたくさんありました。それは患者さんとの関わりの中で生まれました。入職してから多くの患者様と関わらせていただいています。まだまだ未熟な私に対してまでも「ありがとう。」という言葉がたくさんかけて下さり、私自身が患者様に元気を与えなければならぬ立場であるのに、反対に多くの元気をいただいているように感じます。

様々なことを教えて下さった先輩方や患者様に感謝の気持ちでいっぱいです。せっかく教えていたことを忘れず自分のものとし、丁寧に看護ケアを行い、患者様に満足していただけるよう努力していきます。

様々なことを教えて下さった先輩方や患者様に感謝の気持ちでいっぱいです。せっかく教えていたことを忘れず自分のものとし、丁寧に看護ケアを行い、患者様に満足していただけるよう努力していきます。

## 半年を振り返って

リハビリテーション病院

作業療法士

内藤 翔太

入職から半年がたったことに驚いています。はじめは、新しい環境に対して緊張ばかりしていましたが、患者さんと接していく中で緊張も和らぎ、職場の雰囲気にも慣れることができました。入職してすぐは、先輩方の訓練を見学することが多く、基本的な知識の理解が薄いことを



改めて痛感し、自分が本当に担当できるのかという不安でいっぱいになりました。初めて担当したときは、緊張のあまり声が震えたのを覚えています。担当した方が、やさしく接してくださり徐々に緊張も解け、訓練を行うことができました。患者さんの「ありがとう」や「動きやすくなった」の言葉に励まされて、なんとか日々の訓練を送ることができました。

作業療法士は身体的な部分だけでなく、その人の生活により密着し、日常生活動作の獲得を目指していくことをハビリの目標の一つとしています。その人がどのような生活を送っていたのか、どのような役割を担ってきたのかなどを理解したうえで訓練を行います。できないことができるようになったことや、感謝の言葉にやりがいを感じています。その反面「もっといい方法があったのではないか」という思いも強く、それからは今まで以上に先輩方の訓練を見て学び、吸収しようと意識して日々を送るようになりました。この半年間で、私はコミュニケーション・関係性の大切さを改めて感じました。訓練を行っていく中で関係性がしっかりと取れていることは、訓練の質や意欲の向上にもつながると実感しました。半年の間にも関係性が上手く取れず、思うような訓練を行うことができないことがありました。こちらの押しつけだけではなく、しっかりと患者さんを見ること、思いをくみ取り訓練に反映していけるようにしていきたいと思いました。また、以前先輩から言われた「患者さんからしたら、ベテランも新人も同じ」と言う言葉に責任の重さを感じ、今より少しでも良い訓練を提供できるように、学んでいきたいと思えます。

## 落ち着いたら手紙を書くということの難しさ

藤が丘病院 医事第一課

松尾 悠



映画「魔女の宅急便」をご覧になったことがありますか。見習いの魔女のキキが修行に出て、素敵な町や人たちに会い、試練を乗り越える姿は、清々しい気持ちにさせてくれます。ただ、私には観るたび違和感をおぼえることがあります。キキは旅立つ前に母親から「住むところが決まったら手紙を送ってね」と言われるのですが、その手紙が映画の最後によく登場することです。彼女の一連の歩みからすると、これほどの経験を積むよりもっと前に手紙を書けるのではないかと考えてしまいます。

なぜ映画について語っているのだ、新入職員の現状などはどこへいった、と思われるかもしれませんが。ただまじく、就職を機に大阪から上京してきた私にとって、書くべき手紙を書けないまま半年も過ぎてしまっているのが現状なのです。

4月の新人研修を経て、藤が丘病院医事課への配属が決まり、5・6月は外来係に、7月からは入院係に所属しています。今は先輩方に指導を受けながら、4階西病棟の患者さんの会計を担当させていただいています。さらに、耳鼻咽喉科の保険請求業務も担っています。日々新しい知識を得て、できなかったことが少しずつできるようになる喜びを感じたり、時には落ち込むこともあったりと、刺激的で怒涛の半年でした。その中で、心境の変化もありました。当初、これまでは自分のためだけに尽力してきたが、社会人になった暁には他人のために尽力するのだと思っていました。しかし、知識を得ることは自分のためでもいい、ただし、その知識をもって取り組むことが他人に影響を与えることを自覚しておかなければならない、と思うようになりました。この変化は、単に責任感が増したからではなく、社会人としての謙虚さを大切にしようとした成果かもしれません。

映画のラストシーンでは、キキが友人を救い、記者たちに囲まれているところに飼い猫ジジが現れたとき、ジジは「キキ！」と言うのではなく「ニャー」と鳴きます。これは、魔法の世界ではなく人間の世界で、これからもキキが奮闘していくことを予感させます。私はまだ一人前に仕事をできるようになったわけでもなく、ましてや友人を空中でキャッチしたわけでもありませんが、そろそろ手紙を書くと思っています。そして、これからもまずは自分に出来ることを精一杯頑張っていきたいです。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

## 栄養科ってこんな場所

藤が丘病院 栄養科

科長補佐

玉木 大輔

病院の中で給食を作っているところというのはご存じのことと思いますが、目立っているところではありませんので、場所も知らない方が多いのではないのでしょうか。藤が丘病院の栄養科は地下1階、食堂の奥に厨房とともにあります。

かなり以前の病院給食は、「早い」「冷たい」「まずい」といったマイナスイメージをもっていらっしゃる方が多かったのですが、給食時間の変更や、温冷配膳車の導入といったことでかなり改善していると思います。もちろん味付けや盛り付けなどにも気を配り給食を行っています。最近の調査では、8割近くの患者様から、給食に対して「満足」「まあまあ満足」との回答をいただきました。もちろん食事がおいしいことは大切なことです。しかし、それだけでは病院の給食は成り立ちません。それはすべての事項で「安



全」であるということです。衛生的なこと、年齢や咀嚼(かむこと)・嚥下(飲み込むこと)の機能に合わせた食事であること、個人のアレルギーのもととなるものを含まないことなどが重要です。また、腎疾患や糖尿病などには、食事療法が直接的に治療に関与しています。栄養状態の良否は治療に大きな影響を与えます。栄養状態が悪い状態が続くと傷の治りが悪くなったり、感染症にかかりやすいことが知られています。病院ではこのようなことを防ぐために、NST(栄養サポートチーム)が組織されています。チームには医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・歯科衛生士・管理栄養士といった多職種で患者様の栄養状態の評価や、何をどのくらい、どのようにして摂取・投与していくかを検討し、主治医に提案を行います。このように病院の食事は患者様に対するサービスであると同時に、栄養管理といった医療の一つでもあるわけです。

栄養科のもう一つ重要な仕事に栄養指導があげられます。腎疾患に対する低たんぱく食療法や、糖尿病・高血圧症・脂質異常症などの生活習慣病における食事療法などは、患者様ご本人が継続して行っていく治療法です。したがって疾病の理解や食事療法のやり方を正しく知っていなければなりません。このため栄養指導は継続的に行っていく必要がありますので、外来受診と合わせて栄養指導室に来ていただいております。栄養指導は主治医の指示で行っておりますので、栄養指導を希望する方はまず主治医に相談をしてみてください。

## 平成 25 年度青葉区消防操法技術訓練会

藤が丘病院管理第一課



9月25日(水)に青葉消防署主催による平成25年度青葉区自衛消防隊消防操法技術訓練会がこどもの国で行われました。

消防操法技術訓練会と聞くと、みなさんピンと来ないかもしれませんが。簡単に説明すると、一般家庭に備えてある一般消火器の取扱方法(操法)やその他の消火栓の取扱を正確かつ素早く実施するためのもので、毎年青葉区のみならず、各自治体で毎年実施されている大会です。

大会は、「消火器の部(男性、女性)」、「屋内消火栓操法Ⅰの部(女性)」、「屋内消火栓操法Ⅱの部(男性又は男女混成)」、「小型ポンプ操法の部」と4部門に分かれています。藤が丘病院からは、「屋内消火栓操法Ⅰの部(女性)」と「屋内消火栓操法Ⅱの部(男性)」に参加しました。

大会結果は、「屋内消火栓操法Ⅱの部(男性)」は残念ながら入賞を逃しましたが、「屋内消火栓操法Ⅰの部(女性)」は見事最優秀賞を勝ち取り、10月24日(木)に横浜市大会へ進むこととなりました。

今回の結果の如何に限らず、今後もご来院、ご入院中の患者さんに安心して治療に専念していただくための一助として、日々努力してまいります。

## 診療統計 2013年8月・9月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	8月	9月	8月	9月
外来患者数	33,218人(1230.3人)	30,478人(1325.1人)	4,977人(184.3人)	4,766人(207.2人)
入院患者数	15,398人(496.7人)	14,790人(493.0人)	5,874人(189.5人)	5,200人(173.3人)

2013年8月・9月( )内は1日平均

### 《編集後記》

気が付けばもう10月……

冬物衣料の用意や、インフルエンザの予防接種も受けなきゃ

紅葉狩りにも出掛けないと……

7年後のオリンピックに思いを馳せ、何かスポーツを始めるのもいいかも？

皆様はどうですか？

### 《編集委員》

高橋 寛	佐々木 春明	水間 正澄
小岩 文彦	高橋 良昌	堤 博志
大塚 幸彦	吉原 利栄	辻本 さなえ
林 好彦	豊巻 美里	飯田 八代枝
有本 由布子	高橋 良治	(順不同)